



橋口貴之選手（松山町出身）の力走

曾於チーム総合8位でゴール

第64回鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競走大会が開催され曾於チームが8位でゴールしました。

2月18日から22日まで開催された同大会に、県内12地区のチームが出場し、県下を一周する53区間、総距離588.1キロをタスキでつなぎ競いました。

大会4日目の21日は、曾於チームの地元、大隅で競技が行われ、本市でも大隅中継点でタスキを受け取った選手が伊崎田、志布志の各中継点を通りました。市内を走り抜ける選手に沿道からは多くの市民が声援を贈りました。

各中継点では、毎年恒例となった、地元の地域女性連絡協議会による温かいそばなどのおもてなしを楽しむ、選手や大会関係者の姿も見られました。

【本市からの出場選手】

後藤 健太 選手・加治屋 毅 選手・坂中 省章 選手
橋口 貴之 選手・増田 悠大 選手・池田 峻哉 選手



曾於チームの選手に声援を送る伊崎田保育園の園児



志布志港の災害対応力を強化

志布志市、九州地方整備局志布志港湾事務所及び県大隅地域振興局が臨時事務所の使用に関する協定を締結しました。

志布志港を所管する国と県の機関が標高3mの志布志港内にあり、津波発生時に直接被害を受けます。そのため、両機関が被災しても港湾業務を継続できるよう、2月22日、市役所本庁において、津波に対し安全な市役所志布志支所を臨時的に港湾業務を行う事務所として使用する協定を締結しました。

夢を形にするために

有明中学校で、志を持つことや、自分の可能性を信じ挑戦することの大切さを学ぶ講演会が行われました。

2月23日、同中学校の2年生41名を対象にキャリア教育講座が行われました。講座では、県外から嫁ぎ、お茶の商品開発等に取り組む東八重香織さんが「自分の人生を切り開いて欲しい」と講演されました。講演を聞いた生徒は「夢を実現するためにその過程も大切にしたい」と感想を話しました。



市内では
いろんなことが
ありました。

まちの話題

ふるさと自慢市&文化祭開催

潤ヶ野校区公民館が地域の人に喜んでもらおうと10回目のふるさと自慢市&文化祭を開催しました。

2月12日、旧出水中学校の体育館等で開催された同祭りは多くの来場客で賑わいました。自慢市は、地元の自治会や消防団などが屋台を出店し、来場者はふるさと自慢の味を楽しみました。文化祭では、地域の伝統芸能「てべし」や尚志館高校吹奏楽部と潤ヶ野小学校の児童による共演等も行われました。



楽しく、分かりやすく文化財を解説

文化財愛護会の案内で志布志市内の文化財を巡るバスツアーが開催されました。

2月19日、市内各地に残されている文化遺産の保護活動を行っている文化財愛護会の方々の説明で、志布志市の歴史を楽しく学びました。参加者は「普段聞くことができない専門家の方の解説が聞いてとてもわかりやすかった。文化財愛護会の文化財を守る活動も勉強になった」と話しました。



柳井谷のバクチクキ



災害時の通信の確保を図ります

市と西日本電信電話(株)鹿児島支店は災害時の避難所等における通信を確保するため協定を締結しました。

2月20日、市役所本庁において協定締結式が行われました。今回の協定により、避難所に特設公衆電話回線が事前に設置されます。大規模災害等には、市の判断により避難所に電話機を接続することで、避難された方々に対し、速やかに無料の通信手段（発信専用）が提供されます。

西郷どんのひ孫が市長を表敬

耐雪梅花麗（雪に耐えて梅花麗し）の名言で知られる西郷隆盛のひ孫、西郷隆夫さんが市長を訪問しました。

隆夫さんは、神戸のお生まれですが、ルーツである鹿児島島の活気を取り戻したいと、鹿児島に古くから伝わる子弟教育「郷中教育」などの鹿児島島の文化を県外にアピールしています。1月26日、市長室を訪れた隆夫さんに、来年度教育委員会において予定している講演等について依頼しました。

